

NEWS LETTER



2025年8月発行 一般社団法人 日本口腔衛生学会
ニュースレター第16号

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (一財) 口腔保健協会内
TEL: 03-3947-8891 FAX: 03-3947-8341

E-mail: gakkai37@kokuhoken.or.jp HP: <http://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/>

発行人 山本龍生 編集 広報委員会



CONTENTS

- 第74回日本口腔衛生学会学術大会を終えて
- 若手会員紹介リレー⑧
- 歯科衛生士にとって研究とは?!
- 各種お知らせ
- 新任教授紹介
- 編集後記



日本口腔衛生学会学術大会を終えて

【大会長】小松崎 明 (日本歯科大学新潟生命歯学部衛生学講座)



第74回学術大会の大会テーマは「口腔衛生学の真価・深化・進化」とし、新潟市の朱鷺メッセで開催されました。会員の皆様から多くのご提案、お申込みを頂戴し、シンポジウム12題、ミニシンポジウム6題、口演発表29題、ポスター発表73題、学生ポスター発表14題と、盛り沢山の内容でプログラムを構成することができました。企業様からもランチョンセミナーや展示、広告のご協力を頂戴し、参加者数も656人と盛会にて、全プログラムを無事に終了することができました。

会員の皆様のご支援、ご協力に心から感謝を申し上げます。

懇親会では、華麗な新潟芸妓の舞いに続き、勇壮な万代太鼓が熱演され、あまりの大迫力に会場内では会話ができないとお叱りを受けるほどで、将来に亘り「最もうるさかった懇親会」として皆様の記憶に残していただければ、大会長としては幸いです。新潟は柳都とも呼ばれますが、信濃川の川風も酔いには心地よかったので、行き届かぬ点多々あったと思いますが、水に流してもらえかなと期待しております。

大会長として最も嬉しかったのは、学生ポスター発表の演者の皆さんへ発表奨励賞を授与した時に、全員の学生さんが胸を張って晴々とした表情だったことで、きっとこの中の誰かが、将来の日本口腔衛生学会を担ってくれるのではないかと、思えたことです。

今回の大会開催にご尽力、ご支援を賜りましたすべての皆様に心より感謝を申し上げます。



学生ポスター発表



万代太鼓獅子舞

歯科衛生士にとって研究とは?!

歯科衛生学教育での歯科衛生学研究の位置づけ

高阪利美（愛知学院大学短期大学部リカレント研修センター／愛知学院大学）



歯科衛生学生が卒業までに身につけるべき学修目標等を示した「歯科衛生学モデル・コア・カリキュラム」（以下コアカリ）を R6 年度改訂版として公表された。

このコアカリは歯科衛生士養成の学士課程において初めて策定されたものであり大学教育における歯科衛生士養成の指針として重要な意味を持つ。現在歯科衛生士の養成校は全国に 188 校あり、そのうち大学は 14 校存在している。開校してから 20 年あまり経過する大学もあり、過少ではあるが大学数も増加している。これまで大学教育においては、明確なコアカリは存在しないまま教育が進められてきたが、他職種と肩を並べるための教育体制や臨床実習教育の充実などの課題が指摘されていた。こうした背景を踏まえ今回、歯科衛生学教育モデル・コア・カリキュラムが新たに策定された。

「歯科衛生学」とは、「口腔の健康を通して全身の健康の維持・増進をはかり、生活の質の向上に資するため、理論と実践の両面から探求し、口腔衛生管理、口腔機能管理を基盤とした口腔健康管理を目指した学問」であり歯科衛生士の専門領域である。口腔健康管理の実践には、歯科衛生学の多様な分野の研究と実践が不可欠であり、それらが発展することで、根拠となる研究・論文が生まれ、歯科衛生士の専門性が高まっていく。今回のコアカリには歯科衛生学研究を盛り込まれており、学士課程で養成される人材には、科学的探究力や生涯にわたり研鑽し続ける姿勢が求められている。そのため歯科衛生学研究の実践を通じて課題解決能力を修得することが重視されている。歯科衛生士が自らの専門領域を自覚し、責任をもってその任務にあたることで「歯科衛生学」は社会的に確立された学問領域として認知されていくと考えられる。

歯科衛生学研究の現状と今後の展望

日野出大輔（徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔保健衛生学分野）



学士課程を想定した「歯科衛生学教育モデル・コア・カリキュラム」改定に携わらせていただいたメンバーとして、また、歯科衛生学研究の指導経験を踏まえて述べさせていただきます。

歯学分野における研究基金は分子生物学に代表される基礎研究に手厚く配分されており、私もその 1 人として研究を進めてきた経緯があります。しかし、歯科衛生士養成学科の教授就任後は、卒業研究や修士・博士の学位取得のための研究内容として、基礎研究より学生のキャリアパスに繋がる研究の遂行に努めました。今回のモデル・コア・カリキュラムでは、「RE 科学的探究：保健・医療・福祉・介護の発展のために歯科衛生学研究の重要性を理解し、科学的・批判的思考を身に付けながら学術・研究活動に関与して歯科衛生学を探究する」のコンピテンスを提示しています。学部学生の卒業研究では、実施する研究内容は将来的な展望にどのように結びつくかを考えさせたいと、関連する文献の抄読から

科学的情報を評価し、研究に取り組ませています。幼稚園児保護者へのフッ化物応用アンケート調査研究や食育リーフレット作成・学校現場での講演をきっかけに行政勤務の歯科衛生士として就職した学生もいました。博士前期課程の研究においても、歯科臨床現場で得られた検体を用いた研究から歯科関連企業の研究職へ、行政活動と連携した疫学研究から、行政勤務の歯科衛生士へと進んだ大学院生もいます。そして、これらの成果の多くを、本学会雑誌へ投稿しています。新しく見出した知見を原著論文などにて報告することで、歯科衛生学研究を遂行した者の責務と社会貢献を達成できると考えます。

もちろん、基礎研究により科学的理論・方法論を身に付け、文献抄読等により論理的・批判的思考を経験することで、将来の歯科衛生実践における問題意識を醸成する姿勢は培われます。そのうえで、学士・修士・博士の学位取得を目指す歯科衛生士の方には、研究経験を活かせるような将来を見据えた研究テーマへのチャレンジも検討していただければと思います。

認定歯科衛生士と研究

野口有紀（静岡県立大学短期大学部歯科衛生学科）



認定歯科衛生士とは、特定の専門分野において、高度な知識や技術を持つと認定された歯科衛生士を指します。日本歯科衛生士会や関連学会が主催する研修を修了し一定の条件を満たし、審査を通過することで取得できる資格です。認定分野は多岐にわたり、日本歯科衛生士会や関連学会が特定する分野において専門性を高めることができます。認定歯科衛生士の資格取得は、キャリアアップや専門性の向上に繋がるだけでなく、患者および対象者へのサービス向上にも役立ちます。

口腔衛生学会では日本歯科衛生士会と連携し、地域保健に焦点を当てる地域歯科保健と全身疾患のある患者のケアを重点とする口腔保健管理の2つの区分の審査を行います。審査の条件として、保健活動または臨床経験、研修参加、研究発表の合計35単位以上が必要です。保健活動または臨床経験、研修参加、研究発表のジャンルに応じた知識や技能が求められます。歯科衛生士が行う研究発表には大きな意義があります。日々の業務で感じた小さな疑問を出発点として、研究が進められます。このプロセスは特別なものではなく、日常的な観察や興味から生まれます。研究を通して得られた力は、患者および対象者の口腔保健の向上に直結し、更なるキャリアアップの道も広がります。歯科衛生士が取り組む研究は、臨床業務だけでなく、地域保健や教育活動など、幅広い領域に影響を与えます。

日本口腔衛生学会では、「歯科衛生士研究活動支援事業」を通じて、研究へのアプローチやデータの処理、発表方法に至るまで、サポートを提供しています。口腔衛生学会会員向けに支援を行っており、サポーターメンバである指導医（歯科医師）からアドバイスを受けることが可能となります。このサポートによって多くの歯科衛生士が、専門分野の発展に寄与しています。研究を通じて得られた見解を学術的にまとめあげることは、歯科衛生士の可能性を広げる役割があります。

新任教授紹介



久保庭雅恵（大阪大学大学院歯学研究科予防歯科学講座）

令和6年6月1日付にて大阪大学大学院歯学研究科予防歯科学講座教授を拝命致しました久保庭雅恵です。平成2年に大阪大学歯学部3年次編入学し進路変更する前は、農学の世界に身を置いておりました。農学部での実習時に、「上農は草を見ずして草をとり、中農は草を見て草をとり、下農は草を見て草をとらず」の言葉を教わり深く感銘を受け、その後歯科の世界に入り進路を決める際に、この精神を具現化するのが予防歯科であると確信し、平成7年に雫石 聰先生が主宰されていた予防歯科学講座の門を叩きました。以後、フロリダ大学で2年3ヶ月の研究生活を送った時期以外は、大阪大学予防歯科学講座で臨床、研究、教育に従事してまいりました。

歯科の世界に飛び込んだのが同期生の6年遅れであったこともあり、アカデミアに席を置くことができる残りの期間は長くはありませんが、この一瞬一瞬を無駄にせず、新たな挑戦を続けていく所存です。諸先生方にお力添えいただけましたら幸甚です。



入江浩一郎（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔保健学分野）

2025年1月1日付で、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔保健学分野の教授に着任いたしました。入江浩一郎と申します。2006年に岡山大学を卒業後、臨床研修医制度が開始された年に、京都大学医学部附属病院歯科口腔外科にて初期臨床研修を修了いたしました。その後、2007年に再び岡山大学に戻り、個性豊かな先輩方のもと、恵まれた研究環境で大学院生活を送りました。以降、米国ワシントン大学やコロンビア大学、神奈川歯科大学などの教育研究機関で、予防歯科・口腔衛生学に関する教育、臨床、研究に従事してまいりました。

予防歯科を志したきっかけは、大学3年次の研究室配属です。同年にインドで開催されたAAPD（アジア予防歯科学会）に参加し、また医局の飲み会に定期的にお声掛けいただいたことがご縁となり、そのまま入局する運びとなりました。

「一生自分の歯で食べられる社会の実現」を念頭に置いた教育を受け、その哲学を引き継ぎながら、多くの先輩方に支えられて現在の立場に至っております。今後は長崎大学から志ある人材を多数輩出することが、私にとっての恩返しであると考えております。

長崎県には五島列島をはじめ多くの離島があり、医療面でさまざまな課題を抱えております。長崎大学病院では、口腔管理センター内に予防歯科外来を開設し、周術期口腔管理とともに二本柱で診療・研究を推進してまいります。歯学部の存在意義を常に問いつつ、医局員一丸となって地域医療に貢献していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

若手会員紹介リレー⑧



皆川久美子（新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野）

→久保田 悠（神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科）

今回の若手紹介リレーは、新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野の皆川久美子が担当し、神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科の久保田 悠先生を紹介させていただきます。久保田先生は新潟大学予防歯科学分野での同僚としてご一緒させていただき、当時から卓越した英語力と人格者としてのお人柄を尊敬している心強い存在です。

久保田先生は昭和大学歯学部（今年から昭和医科大学に改称）のご出身で、昭和大学歯学研究科口腔衛生学講座にて口腔機能の研究、口腔ケアや摂食機能療法に従事されました。その後、マヒドン大学公衆衛生学部での学びを通じて国際的な視点を養われ、カンボジアのInternational University Cambodia 歯学部でLecturer, Clinical Tutorとして現地の歯科教育発展に直接貢献されています。

研究面では、昭和大学時代の口腔機能研究から始まり、新潟大学予防歯科学分野ではカンボジアにおける乳歯う蝕の研究に精力的に取り組まれました。現在の神奈川県立保健福祉大学では、大学生の歯科保健や東南アジア在留邦人の口腔健康についての研究を展開されており、国境を越えた歯科保健の課題解決に挑戦されています。特に東南アジア在留邦人の口腔健康に関する研究は、グローバル化が進む現代社会において非常に意義深いテーマです。

また、新潟大学時代から継続してWHO協力センターの業務にも従事され、神奈川県との連携事業にも積極的に参画されています。一般開業医としての臨床経験も活かしながら、地域と国際の両面で幅広く活躍されています。

このように、国内外を問わず多様なフィールドで活動され、教育・研究・国際協力のすべてに精通された久保田先生に、次のバトンをお渡しさせていただきます。久保田先生、どうぞよろしくお願いいたします！

各種お知らせ

各種事業などについてご案内申し上げます。
詳細は、学会誌第75巻第3号をご参照ください。
認定関係の詳細については学会誌第75巻第1号をご覧ください。

学会認定医申請・更新（2025年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は、一般財団法人日本口腔衛生学会認定医制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：新規・更新ともに9月30日（火）まで（消印有効））

学会専門医申請（2025年度分）について

資格を満たすと思われる方は、一般財団法人日本口腔衛生学会専門医制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：9月30日（火）まで（消印有効））

学会指導医申請（2025年度分）について

資格を満たすと思われる方は、一般財団法人日本口腔衛生学会指導医制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：9月30日（火）まで（消印有効））

学会認定地域口腔保健実践者の申請（2025年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は、一般財団法人日本口腔衛生学会地域口腔保健実践者制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：9月30日（火）まで（消印有効））

認定歯科衛生士専門審査制度の申請・更新（2025年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は、一般財団法人日本口腔衛生学会認定歯科衛生士専門審査制度規則・細則を参照のうえ、ふるって申請してください（申請期限：新規・更新ともに9月30日（火）まで（消印有効））

編 集 後 記 広 報 委 員 会 よ り

第16号のニュースレターは、西村瑠美先生、吉岡昌美先生、有本が担当いたしました。

今回の編集担当は3名とも歯科衛生士教育に携わっていることから、「歯科衛生士の研究」に焦点を当てました。この度「歯科衛生学教育モデル・コア・カリキュラム」が改訂され、「歯科衛生学研究」が重要視されています。また、第74回日本口腔衛生学会学術大会では「認定歯科衛生士を取得しよう！」と題したシンポジウムも開催され、歯科衛生士の専門性の獲得には研究実践が重要と考えられます。本号では「歯科衛生士にとって研究とは?!」をテーマに取り上げ、歯科衛生士教育発展に尽力される、3名の先生方にご寄稿いただきました。8回目となる若手会員紹介リレーでは、皆川久美子先生から久保田 悠先生をご紹介いただきました。本誌へご寄稿をお願いした執筆者の皆様のご協力に、深く感謝申し上げます。

今後もニュースレターで、本学会の取り組みを皆様へお伝えしてまいります。会員の皆様におかれましては、引き続きのご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(有本 錦)